令和４年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀県立三養基高等学校

1　前年度 評価結果の概要	**コロナ禍ではあったが講師の招請、広報活動への協力、まちづくりへの提言など地域との関わりある活動を多く実施できた。これからも同様に活動を継続していきたい。** **生徒・保護者アンケートや学校評議員等からの意見を踏まえ、これからも「選ばれる学校」となるよう、生徒とともに校内外の教育活動に工夫・改善を続けていく。**
2　学校教育目標	**平和な国家及び社会に有為の人材を育成するため、校訓「質実剛健」のもと、自主自律の精神の涵養をとおして、知・徳・体の調和のとれた教育を目指す。**
3　本年度の重点目標	①　自主自律と相互尊重の精神を備えた生徒の育成 ②　授業の工夫・改善と学習課題の精選をとおした生徒の学習の向上 ③　保護者、地域との連携の強化

4　重点取組内容・成果指標　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○家庭学習の充実	○学校評価アンケートの「家庭学習の取組」の項目において、良い・ほぼ良いの回答の割合を、職員・生徒・保護者すべてで70%以上にする。 ○家庭学習（平日）2時間以上の生徒の割合を90%以上にする。	・完全下校の時間（19:20）を厳守させることで帰宅後の学習時間の確保を図る。 ・日々の記録を用いて生徒の生活リズムを把握し、面談などを通して学習習慣の定着を図る。	B	・多くの担任（副担任）により、日々の記録を活用した生徒把握が行われた。 ・学校評価アンケートの「家庭学習の取組」の項目において、良い・ほぼ良いの割合は、職員57%、生徒66%、保護者64%と目標には及ばなかった。 ・完全下校はほぼ守られていたが、12/5～12/11に実施した学習時間調査では、家庭学習2時間以上の生徒の割合は約56%(1年34%、2年42%、3年86%)と低く、学習指導の工夫が必要と思われる。	B	・昨年度との比較でも学校評価アンケートの「家庭学習の取組」の項目において、生徒・職員の数値が減少している。 ・現状分析をもとに授業の在り方、課題の質の向上、家庭学習の重要性を理解させる、進路意識を刺激する工夫、一人一台端末の活用など多角的な検討・実行が望まれる。
	○進路意識の啓発と進路希望の達成	○国公立大学合格者50名、近隣有名私立大学合格者100名を目指す。	・各学年で進路講演会を実施する。 ・進路検討会(3年3回)、教科担当者会(3年１回、2年３回、１年３回)を実施し、職員間での情報共有と改善策の検討を行う。 ・大学入試研究報告会の実施。 ・授業研究会の実施。	A	・進路講演会　3年⇒生徒(2回)、保護者(2回)　1年⇒生徒(1回)、保護者(1回)　実施。 ・進路検討会(3年2回)、教科担当者会(3年１回、２年2回、１年2回)、出願検討会(3年1回)実施。 　また、模試ごとに統計資料を配布している。職員間での情報共有と改善策の検討は十分に行われている。 ・大学入試研究報告会の実施。 ・各教科での授業研究会の実施。	A	・様々な具体的取組が、生徒の学習へのモチベーションに繋がり、成果指標アップに繋がることを期待する。 ・学習と部活動の両立で大変だと思うが、生徒には早い段階で進路を意識して欲しい。 ・個人差があると思うが、生徒の目標に向けての努力が生活習慣に現れず、学習に繋がっていない。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動の推進	○道徳教育全体計画及び人権・同和教育年間指導計画に基づいて授業や指導を行った教員90%以上 ○「人の役に立つ行動や集団の中での自分のあるべき姿を意識した行動ができた」と答える生徒80%以上	・各教科、特別活動、総合的な学習、講演会、読書、清掃活動、地域社会との関わりなど、あらゆる機会をとらえて心の教育を行う。	A	・全教員が道徳教育及び人権・同和教育の計画に基づいて授業や指導を行った。 ・1・2年生による地域の清掃活動やバリアフリーに関する人権講話などで、生徒のボランティア精神や人権意識を高めた。アンケートで「人の役に立つ行動」、「集団の中であるべき姿を意識した行動」ができた生徒はそれぞれ81.3%、93.4%だった。	A	・概ね適切な取組であったと思われる。 ・地域の清掃活動は、「地域連携を進める三高」をアピールできる活動である。 ・これまで以上に図書館や体育館の利用等、地域との関わりを持って欲しい。 ・今後も講演会や活動を通して、他者への思いやりを高めて欲しい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ誘発の原因となるSNSの利用について、学校評価アンケート生徒用設問の、自分の心身の健康や病気に対する予防や防犯の意識は高まりましたかで、昨年度の93.6%を上回ることができるようにする。	・防犯講話や集会等で注意喚起し、SNSの利用の危険性を示し、いじめ誘発等の原因や加害者とならないための予防的対応を行う。	B	・生徒アンケートにおいて、講演会等による防犯の意識は昨年度と比べ94.8%と上回った。継続した取り組みにより効果が少しずつ高まっている。 ・予防的取組といじめへの初期対応を適切に行い、重大事案に繋がる案件はなかった。いじめについての対応について、保護者アンケートは「良い」または「ほぼ良い」が54.8%、「わからない」が44.4%という結果が出た。「わからない」という回答に対しては、質問事項を含めて来年度の検討事項とする。	B	・学校においては適切な初期対応が行われていると感じた。 ・ネット社会の中、SNS等によるいじめ防止、犯罪防止を切にお願いしたい。その為には家庭の協力が欠かせないと思う。 ・保護者には学校の初期対応が伝わっていない。 ・表に出てこないいじめはある。ここへの対策が必要である。
	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動の推進	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒80%以上 ◎★郷土の人材を活用した講演会を年間１回は開催する。	・「さがを誇りに思う教育推進事業」を利用して講師を招聘し、講演会を実施することで、郷土の価値の再認識につなげる。 ・年間を通して定期的に「佐賀語り」を読む時間を「朝読書等の時間」に設け、総合的な探究の時間の地域課題研究と連携を図りながら佐賀の魅力について学ぶ。	B	・「講演会後のアンケート」で、「郷土の価値を再認識することができた」と回答した生徒の割合が92%であった。 ・「ふるさとへの誇りや愛着に関するアンケート」で、「佐賀には誇れることがある」と回答した生徒の割合が82%で、「誇りや愛着を感じている」と回答した生徒の割合が69%であった。しかし、将来佐賀に住みたいと考えている生徒の割合は40%と低く、佐賀を誇りには思うが、進学や就職となると県外志向にならざるを得ない傾向が見られた。	B	・成果指標を超えており評価できる取組であった。 ・コロナ禍で講演会等の実施が減少したと思うが、状況が改善されればこれまで以上に実施して、佐賀の良さを感じて欲しい。 ・学校生活の中で、佐賀の歴史や伝統を学ぶ時間を増やすと、それが結果に繋がると思います。
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成 ●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「平均睡眠時間6時間以上」の生徒70%以上 ○感染症予防のためのマスク着用、こまめな手洗い、消毒100% ●「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上 ○朝食摂取率90%以上	・「保健・食育だより」の発行。 ・担任及び保健委員を中心とした委員会からHRでの声かけの実施。 ・保健室来室者への個別指導。	A	・休業日まで含めると平均睡眠時間は6時間以上を80%が確保できている。 ・マスクの着用はできており、感染症対策についての意識は97%が高めることができた。 ・病気予防の意識は95%が高めることができた。 ・エネルギーや水・紙などの使用量削減の意識を94%が高めることができた。 ・ゴミの減量化や分別は90%が意識を持って取り組んでいる。	A	・個人の判断となったマスク着用を、今後学校生活でどのように指導するかを明確にする必要がある。 ・健康のため食事の大切さは生徒は十分理解できている。これからは生活習慣の大切さを指導して頂きたいと願います。 ・保健だよりを読んでいない生徒が多く、活用ができていない。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日を毎週月曜日に設定する。 ・部活動休養日は、年間平均週２日確保する。 ・持続可能の観点から、校務分掌での業務のスリム化、効率化を図る。	B	・定時退勤日の達成状況については、個人差が大きかった。 ・部活動休養日は各部活動の計画・実施結果を確認し、年間平均週２日確保できていた。 ・時間外勤務時間は前年度と比較して、どの月も職員の平均時間が1～6時間減少した。 ・会議については、ICTの活用を図り、集合する回数を減らした。	B	・時間外勤務時間が減少傾向にあり、評価できる取組であった。 ・今後も業務効率化の推進に向けた、さらなる具体的取組が望まれる。 ・オンライン会議やメッセージ機能の活用により改善が図られて良かった。 ・先生方の疲労が、授業にも影響するので引き続き改善に取り組んで欲しい。

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育　★･･･唯一無二の誇り高き学校づくり

5　総合評価・ 次年度への展望	・取組によっては成果指標が達成できており、評価できる項目もあった。今後はさらなる改善につながる成果指標を設定していきたい。 ・今年度より「SAGA　唯一無二の学校魅力化実践事業」の「SAGAスマート・ラーニング（SSL）指定校」となった。学校関係者評価にもあるように、今後も地域や小学校・中学校などとの交流・連携を図る。 ・各学年で家庭学習時間確保のために、課題の質の向上、生徒への意識付け、一人一台端末の活用等様々な工夫・改善を図る必要がある。